



あなたはあなたのままでいいんだよ

子どもをまるごと受けとめ寄り添える親と教師に

6月9日、犬山市で「尾北の子どもと教育を考えるつどい」が開催されました。

素敵な女声コーラスの発表のあと「あなたはあなたのままでいいんだよ子どもをまるごと受けとめ寄り添える親と教師に」をテーマに大江未知さん(兵庫県小学校教諭)の講演会が行われました。講演の要旨を紹介します(本文中の子どもの名前は仮名です)。

「死ね、むかつく、消えろ！」

大江さんが、ある学校で担任した4年生の子の話です。

わたしのクラスに、ギャオスと呼ばれていた子がいたのですが、複雑な家庭の子で、とにかく言葉がなぐ、うまく自分を表現できないう子で、だから叫ぶわけですよ。

話しかけると「死ね、むかつく、消えろー」と叫ぶ。

「算数をやります」と、私が言えば「何で算数なんじゃー」と叫ぶ。そういう子で



ずつだけど、みんなの中にギャオスが、ギャオスの中にみんなが入っていくのですね。

「叫んだりするのは、こういう理由じゃないかな」と、ギャオスのことが少しずつ分かっていく。そうやって、子どもどうしは、少しずつつながっていくのですね。

「身分制度はなくなったの？」

次に、昨年度担任した6年生のクラスの話がされました。

まず、夏代のことから話されました。

5月に、夏代が「サツキのこと嫌いな人、手を挙げて」と言っていて、サツキをいじめするような出来事が起こりました。私は、どうしてそういうことを言ったの？と夏代にストレートに聞いてみました。

答えの代わりに語られたのは、夏代自身が5年生の時に、トイレに閉じこもった日々の話でした。5年生の時のクラスは、ぴしっとして落ち着いていたのですが、次第に苦痛を感じるようになったことでした。

その理由は、クラスで《今日のキラキラさん》とあって、その人のいいところを発見してほめ合うという取り組みがあり、最初は、夏代も賞状などがもらえる

ので、うれしかったのですが、ある時からクラスにいることがつらくなってきたと言っています。

それは、舞ちゃんのことでした。舞ちゃんも、クラスでいじめられていた子ですが、その舞ちゃんに夏代が優しくしたこと、《今日のキラキラさん》でほめられたことがあったことですね。

しかし、夏代は、「みんなが舞を差別して私しか友だちにならなかったから一緒にいただけなのに、舞ちゃんに優しくしていたと、わたしを白々しくほめる。形だけほめられても、うれしくない。おまえも底辺にいるのだぞって、烙印を押されているような気持ちになった。でも、拍手で賞状を手渡されると、喜んでるように振る舞わなくてはならなかった。いい子でいなくちゃならなくなって、つらくなってきた…」と言っています。

そして、おなか痛くなり、トイレで過ごす時間が多くなってきて、そういうときに教室にもどると、みんなが自分を馬鹿にしたような顔をしたけど、自分は舞と一緒に身分が下だから黙っていたことでした。

6年生になって、5年生の時とクラスの雰囲気は変わったけど、「身分制度はなくなったの?」「本当は誰かが下なの?」「自分はどのなの?」などと、不安になり、それを確かめたかった。それで「サ

ツキのこと嫌いな人、手を挙げて」と言っ
てしまった、とのことでした。

私は夏代に、まずサツキに謝って、女子
たちに、差別に対する夏代の不安な気持ち
を話してみようと提案したのです。

そして、クラスの女子を集めて話し合う
中で、「一番問題なのは、私たちの中に、あ
の人だったら悪口を言ってもいいと差別す
る気持ちがあることです」という意見が出
されました。

それをクラス全体に報告すると、男子か
ら「女子全員が話し合って、クラスの男子
にも差別のことを報告したことに感心した」
といった声が聞かれました。

さらに、私に対しては、「先生は甘いだけ
とちがうねんなあ。一番大切なことは何か
考えようって言ってくれたけど、ぼくは、
そういうのっていいなあって思った」と話
してくれました。

第二次性徴に 戸惑う子ども

次に、同じクラスの啓ちゃんのことを話
されました。

成績は優秀だが、教師に対して「先生の
言うことは理想ですが、甘い気がしますね」
と、大人のように言い、反抗的な子です。

その一方で「先生、啓ちゃんのエロ話は
相当えぐいで」と他の子に言われます。で

も、啓ちゃんがエロいには理由があつた
のです。

塾の休み時間に、コンビニでエッチな雑
誌の表紙を見て、家のパソコンで検索して
いるとのこと。それで、本人と話してみ
ると、「ぼくは、エロい話をしているつもりは
ない。本当のことを知りたいんだ」と言
うのです。本当のことを知りたいからどん
どエロくなつていったのでしょね。

それで、わたしは、性教育をすることに
しました。啓ちゃんは事前のアンケートで
「射精について知りたい」と書いていまし
た。そのことを聞いてみるよ、

「ぼくは、4年生の終わり頃に精通があ
つて、友だちより早くていやだったけど、
お母さんから、体も心も人より早く成長し
ている証拠だと言われた。でも、ぼくは、
もうこれ以上伸びないのかなあって焦って
いる。身長も止まって、頭も今がピークで、
ぼくは、ただ早熟なだけで、将来は平凡な
のかなあ、今は皆に天才と言われているも、
失速するのかなあ。人より早くゴールに着
いちやう感じた」と話してくれました。

私は「精通と、君がどういう人になって
いくかは、関係ないよ。体の変化が不安な
気持ちは分かる。体のことって、頑張っ
てもどうしようもないことが多いよね。人間
は、遺伝子とかで決められている部分と、
いろいろなものの影響で変えられる部分と
がある。性の問題も生の問題としてまじめ

に考えようね」と話しました。

性教育の後、啓ちゃんは「先生の話、
よかったわ。安心した」と言ってくれま
した。啓ちゃんの心に出会うまでに時間
はかかりましたが、今は、この子がいと
おしく思えます。

安心が宿る 教室に

最後に、子どもとの向き合い方につ
いて話されました。

子どもと向き合う時、「同じ方を向いて
考えてみる」ことが大事かなと思うので
すね。

同じ方を向いて考えてみるというのは、
叫んだり人の悪口を言ったりするその子
の言動に対して、「何でそうするのかなど
考えてみる」ことなのではないかと思
います。

そういう中で、だんだん「この子には
こう見えてるのかな」と思えたりします。
子どもを拒絶せず、その子の話をき
くと聞いて、その子の立場から世界を見
ていく。

そうすると、ギャオスの「死ぬ、むか
つく、消えろー」という叫びの中に「俺
のことも見てくれー」という声が聞こえ
てくる。性におびえ「助けて、助けて。
わからへんのや!」と啓ちゃんの不安な

声が聞こえてくる。「私は、ここにいて
いの?」と夏代の苦しんでいる声が聞
えてくるのです。

そして、その後のクラスについても話
されました。

わたしは、啓ちゃんに対して、女子に
エロい話をした償いとして、みんなに算
数を教えるよう促しました。すると、啓
ちゃんが分かりやすく教えるので、女子
から「啓ちゃんって、意外に優しい」と
言われるようになったのです。

一人一人が自由に意見が言え、安心が
宿る教室になってきました。

子どもたちは、心に「不安」を抱えた
とき、それに対処しようと、さまざま
方法で表現します。

一見、困ったような表現でも、「何でか
なあ」と考えると、その子の「不安」が、
親や教師、クラスのみんなに見えてきて、
「あなたはあなたのままでしかいらね
い」、「自分も自分のままでしかいらね
い」ことに気づくのかなと思うのです。

そして、お互いに違いがあることを受
け入れながら、互いを認め合えるよう
なることが大切だと思うのです。

一人一人の不安をみんなで共有して学
んでいくことで、温かみのある学級にな
り、その子にもクラスのみんなにも安心
が宿っていくのではないでしょ
うか。

